

内村選手が4度目の五輪代表

鉄棒に絞り、けが乗り越えた32歳

体操で数々の実績を残している32歳の内村航平選手が、群馬県の高崎市で6日に行われた全日本種目別選手権大会の鉄棒で2位となり、種目別でオリンピック（五輪）代表に選ばれた。2008年の北京（中国）大会、12年ロンドン（英国）大会、16年リオデジャネイロ（ブラジル）大会に続いて4大会連続での五輪出場となる。

内村選手は15年の世界選手権個人総合で6連覇の偉業を達成。五輪では、北京で個人総合と団体で銀メダル、ロンドンでは個人総合で金メダル、団体とゆかで銀メダル、

リオデジャネイロでは個人総合と団体で金メダルを獲得した。しかし、17年の世界選手権で負傷し、その後もけがが続いた。内村選手は「次の五輪が東京でなかったら、（リオデジャネイロ大会を最後に）引退していた」と言う。それほど、長年の競技生活が体に大きなストレスを掛けていた。内村選手は6種目をこなさなければならぬ個人総合をあきらめ、得意の鉄棒に絞って東京五輪を目指すことに決めた。



男子鉄棒決勝でH難度の演技「プレートシュナイダー」を決める内村選手[代表撮影]

この日の種目別決勝で、内村選手は演技途中でミスし、パーフエクトな結果を出せなかったが、4月の全日本個人総合、5月のNHK杯の成績を含めた総合成績で代表の条件をクリアした。「（ミスは）五輪までに完璧な演技をするための試練。より強い気持ちで練習していくと話し、気持ちを新たに五輪で4個目の金メダルを目指す。

19歳の笹生選手、メジャー大会制覇

プレーオフで畑岡選手を下す

女子ゴルフのメジャー大会（ANAインスピレイション、全米女子オープン、全米女子プロ選手権、エビアン選手権、全英女子オープン）で最も古い76回の歴史を持つ最高峰の全米女子オープン大会で、笹生優花選手が日本勢初の優勝を果たした。19歳11カ月17日での優勝は、史上最年少記録。サンフランシスコで6日に最終ラウンドが行われ、笹生選手と畑岡奈紗選手の日本勢が通算4アンダーで並んだ。勝負は、どちらかのスコアが上回るまで決着しないプレーオフに持ち込まれた。プレーオフでは2ホール目まで両者譲らず、3ホール目で笹生選手が畑岡選手を振り切った。日本女子のメジャー制覇は、1977年全米女子プロ選手権の樋口久子さん、2019年全英女子オープンの渋野日向子選手に続いて3人目。



ゴルフの全米女子オープンを制し、トロフィーを掲げる笹生選手



最終日、ショットを放つ笹生選手（AFP=時事）

この日の序盤でスコアを崩しながらも粘った笹生選手。「キャディーさんから『まだホールは残っているから頑張れ』と言われた。（勝てて）本当にうれしい」と、目標にしていた大会での勝利を心から喜んだ。

山県選手、9秒95の日本新記録

陸上男子100メートルで日本勢4人目の9秒台

陸上の男子100メートルで山県亮太選手が9秒95の日本新記録を樹立した。サニブラウン・ハキーム選手が2019年6月に出した9秒97を0秒02更新し、日本勢で4人目の9秒台突入者となった。

6日、鳥取市で行われた布勢スプリント大会の男子100メートル決勝で、山県選手は先行する選手を60メートルあたりでとらえ、残り30メートルから少しずつ引き離した。

1位でゴールを駆け抜けた直後の速報タイムは、日本記録に並ぶ9秒97。「公認記録であってくれ」。山県選手が祈りながら待った1分後、9秒95の公式記録



9秒95の日本新記録で優勝し、笑顔でポーズをとる山県選手[代表撮影]

が表示された。「まさか0秒02も上がって、プレゼントをもらった気分。2倍うれしかった」と笑顔がはじけた。

これまで風に恵まれないレースが多かったが、この日は公認ぎりぎりの追い風2.0メートルで、自然条件にも後押しされた。このレースの山県選手の最高スピードは秒速11.62メートル（時速41.8キロ）だった。24日に開幕する日本選手権で3位以内にすれば、3度目の五輪代表選手に内定する。「順位を狙うのは簡単ではないが、自信を持って臨みたい」と決意を話した。



女子バレーボール決勝戦、日本対ソ連。日本は、3-0で圧勝し、金メダルを獲得した

女子の参加選手が大きく増加

1964年にアテネ（ギリシャ）で第1回大会が開催され、日本では1964年に東京で初めて行われたオリンピック。現在のオリンピックとは、どんな違いがあるだろうか。1964年大会では、実施された20競技163種目に93カ国・地域が

ら5152人の選手が参加したが、このうち女子選手は684人で、出場選手に占める割合はわずか13%だった。日本からは355人（男子294人、女子61人）が出場。女子の割合は17%だった。前回大会の2016年リオデジャネイロ（ブラジル）大会には207カ国・地域から1万1238人が参加し、女子選手の割合は48%を超えた。日本からは338人（男子174人、女子164人）が参加した。日本の選手数は男女の差がほぼなくなった。2012年のロンドン大会でボクシングの女子種目が増え、女子が全競技に参加できるようになったこと、女子もスポーツに専念できる環境が整ってきたことなどが、女子の選手数が増えた理由だ。今年の東京大会での参加選手数はまだ確定していないが、女子の割合はさらに増え、ほぼ男女同数となる見込みだ。



ボクシング女子の東京五輪代表、フライ級の並木月海選手（左）とフエザー級の入江聖奈選手

過去の名シーンを振り返ります

あの時のおき記憶

スポーツアーカイブ

1964年の東京五輪